

## 第4回青森ねぶた祭検討特別委員会会議概要

日 時 平成17年10月5日(水) 14時00分～16時00分

場 所 ラ・プラス青い森 4F ラ・メール

出席者 蝦名委員長、佐藤副委員長、武田委員、對馬委員、若井委員、千葉委員、  
柳谷委員、太田委員、奈良委員、澤田委員  
運行団体協議会櫛引事務局長・・・オブザーバー

欠席者 勝又委員、采田委員

### 委員長挨拶

- ・長期的な問題と短期的な問題があり、中には来年度のねぶたに反映出来るテーマもあるので、今回は今までの結論を特別委員会としてまとめ、必要なものは関係機関へ働きかけるなど、早めの対応をしていきたい。

### ○前回議事要旨の確認について

委員に前回議事要旨をご覧いただき、内容確認をした。

### ○会議概要(ねぶた運行関係について)

#### 1. 運行コースについて

**前回：現コースを基本とし、終了後の帰路のコースの有効活用に努める。**

- ・帰路を進行の囃子にした場合、ハネトがいて運行コースとなれば警察の交通規制や実行委員会の清掃や管理運営面の問題もある。
- ・ハネトが解散するので、ねぶたや囃子方が早く帰れる。ハネトがいると交通規制の時間が長くなる。
- ・何年かの締めめの年にでも自由運行が出来ないものか。
- ・実行委員会が主体となりそれを警察がサポートするというのが、警察のスタンス。
- ・自由運行と柳町展示は平成25年頃の中期的な課題にしてはどうか。最初は1日だけ自由運行してみて、そのうち3日と4日だけ運行してみては。また、自由運行は警備の面で大変ならば、祭り終了後毎晩22:00まで2台位ずつ柳町の歩道に展示する。すると宿泊客が一旦ホテルに戻ってからまたねぶたを見に来る。

**結論：現運行コースを運行する。**

中期的な目標として8/3・4だけでも自由運行日を設定する。22時頃まで数台柳町通りに展示する。

#### 2. 運行方法について

**前回：将来的には吹き流し方式を再現すべきだが、現状は一斉スタート一斉解散方式とする。**

- ・カラスハネトがいる以上当面今の運行方式でやむを得ない。

- ・現方式はカラス対策のために始めた方式。
- ・吹き流し方式の方が良いと言う人が多い印象があるが、現方式の方がスムーズで良いという声もある。
- ・ボランティアの拘束時間の問題もある。結果を見れば上手くやっているので現在の方式の方が良い感じがする。
- ・今後ボランティアが少なくなっていくと、現状維持が難しい。今後対策が必要。
- ・ボランティアの減少は運行団体の支援隊でカバーしている。支援隊がカラスの動きにあわせてフレキシブルな動きをしてくれるのでフォロー出来ている。
- ・吹き流し方式は観覧場所によって1時間以上経たないとねぶたが見られないが、一斉スタートは18:50になれば一斉に見ることが出来る。
- ・吹き流し方式の時は、先頭のねぶたが一周してきてもまだ最後のねぶたが3台ぐらい出発していないことがあり、運行が難しかった。さらに国道解放21:00も難しかった。今の方式はハネトが分散されていて良い。吹き流し方式だとハネトが後ろのねぶたにばかり集中する傾向があるし、逆流も多い。
- ・18・19年度は現方式でよい。中期以降については、現状では判断がつかないので今決めなくても良いのでは。ハネトの高齢化でハネト数が減れば必然的に吹き流し方式にならざるを得ない日が来ると思う。
- ・夜の祭りなのに本町が寂しい。ねぶたの最中は商売にならないらしい。これはおかしいのでは。
- ・ハネトの若年化ではないか。飲み屋でお金を使わない世代のハネトが多くなっている。運行団体の人もあまり飲みに行かなくなった。
- ・時間が早いからではないか。前は19:00スタートで遅い団体は19:40頃までたっぷり飲んでた。

**結論：当面は一斉スタート一斉解散とする。**

### 3. 運行時間について

**前回：スタートと終了の時間を繰り下げる。**

- ・警察は署員を他管区から動員しているので時間を繰り下げると拘束時間も長くなり、帰す時間も遅れる。他にボランティアの撤収時間も遅れ、ガードマンの雇用時間が長くなるという問題がある。
- ・現状では1周出来ない日があり、5日・6日はあと15～20分欲しいとのことだったので、出発時間を30分、終了時間を50分繰り下げてはどうか。
- ・まず、スタート・終了共に30分繰り下げをお願いしてはどうか。
- ・30分繰り下げると祭り終了後に十和田湖や他県に移動しなくなるか。
- ・移動は変わらないと思う。
- ・宿泊と観覧券のセットを作ればよいのではないか。
- ・開始時間を繰り下げることによりねぶたの前の時間を観光や食事に有効に使えるメリットがあるのでは。
- ・30分繰り下げは警察当局を除くと概ね賛成ではないか。

- ・1周するためにはもう15分位余裕がほしいが、ハネトのダラダラ歩き問題もある。本来1番解決しなくてはならない問題だ。
- ・交渉はまず事務局レベルで行い、最終的には実行委員会（主催3団体）、運行団体協議会のトップという形で臨みたい。
- ・警察としても遅い時間帯の規制はラッシュアワーをずらすことが出来るので良い面もある。ただ、遅くなると時間外手当が増えることが問題。
- ・希望は終了時間50分繰り下げだが、交渉はしづらい。スタート30分繰り下げで5・6日だけさらに10分時間をもらうというのはどうか。
- ・警察も予算はあるかもしれないが、市民の声やマスコミ活用などし、世論とすれば考えるのではないか。
- ・警備については最終的に警察に責任があるので簡単には動かない。

**結論：スタート・終了時間共に30分繰り下げを警察当局に願います。**

スタート時間 19時20分（現在18時50分）

終了時間 21時10分（現在20時40分）

国道解放時間 21時30分（現在21時00分）

#### 4. ハネト育成について

前回：ハネト参加ルールをつくり周知徹底をはかる。

若者向け、中高齢者向けのハネトビデオを作り関係機関に配布啓蒙

ハネトインストラクターの養成と派遣

- ・幼稚園や小学校の時から体で感じてもらわない限り難しい。学校教育も含めて働きかけをしなければイタチごっこだ。
- ・長期的な視点で行わなければならないことはみんな理解している。短期的にはどうするか。
- ・ダラダラハネトは今一番の問題だ。
- ・跳ね方の基本ルールといっても基本とは実際なんだかわからない。基本ルールの共通認識が必要だ。
- ・服装や鳴り物の規制をルールとして設け、疲れない跳ね方の普及ビデオの作成をするという話しが前回の会議ででた。
- ・保存会でハネトの話しはなかったのか。
- ・重要無形民俗文化財に指定された当時のハネトスタイルをモデルスタイルとした。花笠も着用したスタイル。
- ・跳ね方についての取り決めはない。若者でも2、3分跳ねると疲れて歩く。まして花笠をかぶると暑い。疲れない跳ね方の指導や少し囃子をハネトの中に入れて煽るようなやり方など良いのではないか。
- ・ハネトの実態は跳ね方を知っていれば跳ねるというレベルではない。跳ね方ビデオを見せても言うことはきかない。逆に笛を吹いている元気な子供たち2、3人に指導して跳ねらせれば元気に見える。来年、再来年の跳ね方と言うならば、誰か勇気を持って中に入るしかない。

- ・カラスハネトが格好良く見えて若者がみんなカラスになり、カラスの規制が厳しくなりタスキの有無、丈の長さ、色の問題もあるが浴衣に戻った。跳ね方を知る知らないというより、ただ目立ちたいだけ。
- ・40代以降の人はあまり跳ねていない。年輩の方はほとんど県外の方のようだ。
- ・ビデオを見せても変化はないと思うが、中学校などで持続する疲れない跳ね方をみんなで1回やってみれば、案外本番にやってくれる人が出るかもしれない。
- ・ハネト本人はダラダラ歩きしても全く困らない。この状況を変えていくような、望むべく跳ね方を奨励していくべき。
- ・基本のような跳ね方をするグループを運行団体に付けてもらうのはどうか。
- ・外から来たハネトが手本とするような、ダラダラ歩きを少なくするコアのハネトを20人くらい用意したり、小太鼓を含んだ囃子をハネトの中に入れてたりする工夫をしたらどうか。現にやってる団体もあるので、強制ではなく協力ということで。
- ・前方に子供と正装ハネトをまとめて囃子方をつけたことがあり、好評であった。しかし、若者がその跳ね方を真似するというレベルではなかった。
- ・歩いていても、囃子の笛に合わせて掛け声は出している。すると掛け声でリズムをとりながら歩いている感じになる。ハネトに囃子の音がきちんと聞こえている状態をつくるのが大事。
- ・運行賞をもらいたくて止まったときは跳ねず、進んだときは跳ねて進むという団体が過去にあった。
- ・運行跳人賞の基準はなにか。
- ・ハネトは花笠も含めて衣装をきちんと身につけているか、まとまって跳ねているか、統制のとれた運行をしているか等、書き物はあるが、最終的には全体の感性。
- ・前は運行賞と跳人賞が分かれていた。跳人賞は花笠が少なくなったから、運行賞はカラスハネトの前身である紫タスキ等のハネトが出てきたのでロープで統制を取った。当時は特に跳ねるといことは基準になかった。それを海上運行するために運行賞と跳人賞をまとめた。
- ・今年から奨励委員会で審査のポイントを見直しし、団体に配った。奨励委員の中でも自分の審査場所以外の様子がわからないので運行跳人賞の審査が難しいと話しが出ている。
- ・ダラダラ歩きやルールよりハネト数の減少が問題ではないか。せっかく跳ねようとしている人に今いろいろ規制するのはタイミング的にどうなのか。
- ・ハネトの数が多くて運行時間がオーバーしている状態はまだある。今年の2～4日のハネトは少なかったが、曜日の関係もあったのか5、6日のハネトは多かった。
- ・ハネトが多ければ運行跳人賞が取れる訳ではない。少ない方が掌握しやすく統制がとりやすい。むしろ統制がとれないくらいハネトが増えている団体は悩んでいるのではないか。
- ・最初にハネト参加のルールづくりと統制を取るといってすごく堅苦しくてイヤになる。まずは疲れない跳ね方を第一にして楽しく参加できるハネトを養成する。次に基本的なルールづくりをすれば良いのではないか。
- ・カラスハネト対策については今やめる訳にはいかないなので、18・19年度は従前の形

を踏襲するしかない。

- ・ハネトは誰でも何処にでも入れる自由参加なのか、それとも運行団体の指示に従ってもらい、従わない人は排除ということなのか。
- ・基本的には誰でも自由参加で、入って団体の指示に従わなければ出てくたさいではないか。
- ・参加ルールの中でハネトも祭りを構成する1メンバーとしての共通認識を持つということをも今の若者に理解されるようPRすべき。
- ・自由参加であってもルールはあるし、ハネトも団体の一員なので参加するときは団体の指示に従うようにと今まではあまり出していなかったが、これからはきちんと行って行かなくてはならない。
- ・その一方で疲れな跳ね方を奨励すべき。ハネトコンテストも開催してはどうか。
- ・前やっていたのはハネト持久力コンテストだった。
- ・各団体から1グループ参加でハネト連コンテストをやってみてはどうか。
- ・全団体は無理。出せない団体もあるので自由参加の連でなければダメ。
- ・参加の場合は10人以上のハネト連がいいのでは。
- ・各団体にハネト統制する責任者はいるのか。
- ・形だけのところもあるが統制責任者はいる。
- ・囃子の小グループをハネトの中に入れるのは良い。また、ハネト連コンテストをやり本番でもハネト達の先頭に立って望ましい跳ね方をやってもらう。
- ・手本となるハネト連をどの団体に入るか実行委員会に決めてもらわないと分散されない。また、ハネトにそういう跳ね方をすれば良いことがあるというものを作って欲しい。
- ・運行団体にも働きかけて、前夜祭でコンテストを行えばどうか。1分間だけ跳ねるのではなく20分跳ねていても疲れず美しく見えるかで採点すれば良いのでは。
- ・YOSAKOIチームや高校生などに疲れなで継続できる跳ね方を研究してもらえば良いのでは。
- ・今までも面白い跳ね方や良い跳ね方があったが、渉外委員会で見苦しいと止めさせた。リズムにのって見苦しくても継続できる跳ね方ならいいとか決めないといけないのでは。
- ・ハネト連の掘り起こしも大事だが、スタンダードといえる昔ながらの優雅な跳ね方の記録保存も必要ではないか。
- ・笛に変わる新しいグッズにはあまりこだわらなくても良いのではないか。必要であればもう自然に出てきてるのではないか。
- ・最近ガガシコを付けている人が少なくなった。ガガシコを奨励してもらいたい。

**結論：疲れな跳ね方を奨励する。**

継続して跳ねることができる疲れな跳ね方を団体や学生に研究してもらう。

疲れな跳ね方コンテストを開催する。

ハネトのルールをつくりPRしていく。

○次回委員会開催について

議題 ねぶたミュージアムについて

日時 平成17年11月4日（金） 午後1時30分～3時30分

以上